

令和7年度 第2回川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会
会議録

日 時 令和8年1月15日（木） 午後2時00分～午後3時15分

会 場 キュポ・ラ本館 7階
メディアセブン プレゼンテーションスタジオ

審議参加者 【委 員】江田由佳、増淵久美子、鈴木和子、山野栄三郎、竹本佳標、江連俊隆、新井梓、木村利充、宮田郁実、大上恭子、高橋義樹、吉野浩一

【事務局】秋葉教育総務部長、高野中央図書館長、萩原前川図書館長、田口新郷図書館長、川野横曽根図書館長、高野戸塚図書館長、本多鳩ヶ谷図書館長、中央図書館小林庶務係長、宮崎サービス第1係長、増田サービス第2係長、本山副主幹、茂出木主査

欠 席 者 【委 員】沼口弘、海老原和江、片倉有紀

議 題

ア 令和7年度図書館及び映像・情報メディアセンターの利用状況と事業報告について

イ 「川口市子ども読書活動推進計画素案（令和8年度～令和12年度）」について

ウ 芝園分室の廃止について

エ 映像・情報メディアセンターの利用料金について

オ 横曽根図書館の移転について

- 1 開会
- 2 議長選出、会議成立の宣言と会議録署名委員の指名
川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第1項により会長が議長となった。

議長は、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第2項により定足数を満たしたことにより、会議の成立を宣言するとともに、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会規則第4条第2項により会議録署名人として増淵副会長を指名した。
また、「川口市附属機関等の会議公開に関する要綱」の規定に基づき、この会議は公開である旨を宣言し、傍聴人が1名いることを報告し、委員の了承を得て傍聴人を入場させた後、議事を開始した。

3 議事

○ 議題アについて、資料1に基づく

[意見・質問と回答]

委 員

資料1の8ページに記載のある「ストーリーテリング」とは何か。読み聞かせとの違いは。

事務局

「読み聞かせ」は絵本を見ながら内容を話すもので、「ストーリーテリング」は、いわゆる「素話し」で、読み手が本の内容を暗記して、本を見ずに話すものである。

他に意見・質問なし

○ 議題イについて、 資料2に基づく

[意見・質問と回答]

委 員

資料2の2ページ目の「3 本市の子どもの読書状況と課題」にある調査結果（「読書が好きですか」）について、埼玉県の平均に比べて川口市が若干低い傾向が見られるが、全国の数値があれば、それとの比較もできるのではないか。

事務局

資料2の2ページ目の表2については、埼玉県学力・学習状況調査となるため、全国のデータはない。資料2の2ページ目の表1については、全国学力・学習状況調査のため、全国の調査報告の割合もある。この表1は「読書が好き・どちらかと言えば好き」を合わせた割合となっているが、このうち「読書が好き」という割合で説明すると、小学6年生（全国）が36.4%、中学生が30.3%となっている。

委 員

資料2の2ページについて。「1か月に1冊も本を読まない」児童生徒について、その理由の回答はあるか。前提として、その子供の状況により、違ってくるのではないか。読書が好きではあるが塾等で忙しく時間が取りづらいためにできないのか、そもそも本が好きではなく読んでいないのかとでは、取り組み方も異なる。その辺りのデータもあれば、施策も決め易いのではないか。

事務局

1問1答となっているため理由については特段調査を行っていない。
あくまで今回の資料は、全国と埼玉県の学力・学習状況調査結果のため、今後の本計画5年間のあいだで、調査のため、川口市でアンケート項目の検討をする。

委 員

全国と埼玉県の学力・学習状況調査は、主に学力に関する調査のため、学力に対して読書がどれくらい関わってくるのかという数値や見方になるので、小学生がどのような形で読書しているのかということに関しての場合はまた違ったアンケート調査が必要となる。川口市は小学校が52校あるので、その全て

に対しての調査は難しい面もあるため、抽出型という形も考えられる。全国学力・学習状況調査の結果は、小学校6年生と中学校3年生が必ず対象となっている。資料2の3ページ目の資料にあるとおり、小学校高学年から中学生になるにつれて、全く本を読まない子どもが増加することを鑑みると、この点に焦点を当てて、調査を行う方がより検証がし易いのではないか。

委 員

図書館でおはなし会に関わっている。近隣に小学校受験に力を入れている人気のある幼稚園がある。その幼稚園も10年ほど前まではそうでなく、その頃は年に1回は図書館に見学に来ていた。ボランティアがストーリーテリングを語り、図書館への来所も促していた。最近は、幼稚園との交流がない。

読書により培われる、文書を正しく読み解く読解力は、学力向上にもつながっていると思う。読書を促しても「時間がない」というが、読書は学習にも役立っていると感じている。そのメリットをアピールしてもいいのではないか。

委 員

小学校・中学校と関わることがあるが、日本語の分からぬ外国人の子供が増えているように感じる。近隣の学校の運動会に参加した際には、競技の際、日本語の説明の後に、その内容を中国語でさらに時間をかけて説明していた。現在の学校生活はこのようなことが多く感じる。このことからも、説明の時間の方に時間を長くとられ、そのことも読書の時間が取りづらい一因になっているのではないか。外国人の子供の中には、読書が好きという以前に日本語が理解できていないことから、日本語の本が読めず、そのため質問に答えられない子もいると思われ、読書が好きな子どもの割合が減っているという調査結果にも影響が出ていると思う。

また、学校の働き方改革で、子供たちの登校時間が以前より変わってきており、従前は毎日朝、5分、10分読書の時間が確保できていたのが、現在は週1回程度になっていると聞いている。学校での読書時間の確保が難しくなってきているのではないか。そのようななかでも読書を促すため、創意工夫を行っているケースもあると聞く。子供たちが校長のところへ読書の報告し、校長がその記録に対して印を押すような企画を行っている学校もあると聞いた。このような学校においての創意工夫されている事案を掲載し、紹介を行ってみてもよいのではないか。

事務局

ご意見について、参考にさせていただく。数値については、外国籍の子供たちがどの程度いるのかは把握していない。

学校における読書の時間について、学校の現場聞くと、確かに朝読書は減少しているとのことだが、別の時間帯に読書時間の確保できるよう工夫していることである。各学校とも連携を取り、そういう情報を発信できればと思っている。

委 員

川口市は、母国語が日本語でない市民が全国的に見ても多いと聞いており、自身の生活のなかでも感じることが多い。図書館を来館した際、外国語の絵本コーナーがあった。様々な言語の本を置いていると思うが、どの程度、子供たちに読まれているの。また、その子供たちが通っている学校にもそのような外国語の本の設置があるのか。情報があれば教えて欲しい。

事務局

中央図書館についてだが、現在、児童のコーナーは25言語取り扱っている。冊数が少ない言語のものもある。小学校等については、詳細は把握していない。ただ、学校司書から時々外国語の図書の購入について質問を受けることがある。そのことから、取り入れる動きはあるのではと感じている。

委 員

川口市立高校では、図書館と連携を取っており、全学年で今年度は昨年度よりも増えたと聞いている。図書の貸出数という視点でアンケートを取るものいいのではないか。

外国籍の生徒の本とのことだが、どうしても予算の関係から難しい面がある。より多くの生徒が読むことができる本を買わざるを得ない。外国籍の子供たちが増えることについては対策対応が必要と感じている。

委 員

資料2の10ページの公民館等の社会教育施設の取り組みについて、図書コーナーを設けているとのことだが、その一つとして戸塚西公民館内に文庫があり、ボランティアが主体となって運営している。文庫活動は川口市内でどれく

らい行われているか図書館では把握しているか。公民館での文庫活動も把握して欲しい。

委 員

資料2の4ページの基本の方針で「2 子どもと保護者が一緒に読書を楽しむ」と掲げられているが、5ページにある「子どもと本の出会いの場の提供」として、出生時に本を渡す事業「ファーストブック」を行っていると以前の審議会の時に聞いた。その際、「図書館から渡したらどうか」と話したが、「図書館は本を貸し出すところ」とのことであった。現在は働き続ける母親も多くなり、また出産後の仕事復帰も早く、乳児の際のいっときが子供と保護者が一緒に読書をする場として図書館を知ってもらう貴重な機会である。小学生になると図書館の存在について知る機会が増えるが、小学生になるまでの期間において図書館の存在を知らない子供が多いように感じる。難しいとは思うが可能であれば、図書館においてファーストブックを配布すれば、乳児の時から親子で楽しめる場として図書館を知る機会が増えるのではないか。

図書館のボランティアが現在、減少している。以前はおはなし会に参加した親子の保護者がその後、子供の手が離れた後にボランティアとなってくれたこともあったが、子供を保育園に入れるまでの間におはなし会に参加するまでに留まり、なり手が不足している。一部、図書館でボランティアの養成講座も行われているとは思うが、現在、ボランティアを増やすための方策はボランティア任せになっている面もある。財政的に厳しい面もあるかとは思うが、こうしたボランティアがあるということを、一般の方に周知いただく機会を作つて欲しい。

事務局

新生児への本のお渡しについては、様々なご意見があることは理解しているが、市役所へ出生時の届出の際に渡すことがより多くの方へ手に渡り易いと考えて実施している。他市では、図書館で渡しているケースもあることは承知しているが規模や人口の違いもある。そういうことも含めて、現在、川口市では出生時の届出の際に渡している。今後、状況等が変わった場合はこの限りではないが、現状では、より多くの方へ行き渡るとの認識からこのように行っている。

ボランティアの養成講座については、コロナ等で行っていなかったが、再来年度のうちには中央図書館で実施する方向で進めている。詳細等、決定したらまたご報告する。

委 員

活動内容について。出張図書館や、学校に司書が来て本を説明するという報告が以前の審議の際あったと思うが、今回の資料ではどの辺にあるか。

事務局

資料1の8、9ページのある、「ブックトーク」「出張おはなし会」などがそ
うである。

委 員

資料2の10ページに「(3) 児童センター・放課後児童クラブの取り組み」とあるが、放課後児童クラブについて詳細に触れられていない。例えばだが、放課後児童クラブに「ブックトーク」など行うことは考えているのか。

保護者として学校に関わっているが、学校としてなかなか時間が取りづらいように感じる。放課後児童クラブの方が、比較的自由な時間が多いようで、もし、「ブックトーク」など行ってくれるのであれば、案内すれば希望するところも多いのではないか。何か実施の際も、学校よりも放課後児童クラブの方が比較的話しが進み易いため、こういったところで上手く連携すれば、学校の負担も減らしつつ、同じサービスを子どもたちに提供できるのではないか。子どもたちに読書の楽しさを気づいてもらえる機会が増やせるのではないか。

事務局

現在、放課後児童クラブ、学童には、1か月間50冊貸し出す「団体貸出」の制度があり、貸し出しを行っている。出張してのおはなし会は行っていないが、貴重なご意見として今後の参考にする。

委 員

戸塚のおはなし会で、放課後児童クラブへ先日行った。子どもたちは熱心に聞いていた。図書館でもそういったことができるとよい。

委 員

子供たちが本と触れ合う点について、「図書館がある」「こういう本がある」「こういう読み方がある」という広報活動が必要となってくると思う。先ほども「広報活動を充実させる」とのことだったが、どういうところに、どういう広報活

動をしていくか、実際の事例や今後の展開のポイントを教えて欲しい。また、市立でない幼稚園や保育園への周知はどうなっているのか。

事務局

来年度新たに始めようとしているのが、中央図書館の職員が行っている「素話し（ストーリーテリング）」や「おはなし会」の様子を録画し、Y o u T u b e で流す予定である。また、幼稚園や保育所への周知が進んでいない面もあるため、年間のスケジュールをまずは周知させていただき、図書館の利用者の状況をみつつ、周知方法を考えていく。

市立でない幼稚園・保育園等の施設についても、ホームページで絵本やおはなし会を紹介しているが、その件についてもご案内まで行っていない部分もあるので、その点、何らかの周知を進めたい。

他に意見・質問なし

○ 議題ウについて、 資料3に基づく

[意見・質問と回答]

意見・質問なし

○ 議題エについて 資料4に基づく

[意見・質問と回答]

意見・質問なし

○ 議題オについて 資料5に基づく

[意見・質問と回答]

意見・質問なし

[その他の意見・質問と回答]

委 員

横曽根図書館でおはなし会に携わっている。大人のためのおはなし会の実施については重ねてお願いしていることである。資料1の12ページに横曽根図書館主催事業として「中学生から大人向けのおはなし会」とあるが、昨年7月26日に実施し、15名の参加があった。戸塚からの参加者もあり、たいへん好評だった。来月、2月28日にも実施予定である。興味があれば是非、参加して欲しい。

他に意見・質問なし

以上